

◆ 編集後記 ◆

皆様ご存知のように、今年は会長職はじめ本会役員が改選の年となり、5月の本会総会で一斉に切り替わります。

広報部一同、力一杯駆け抜けた2年間でしたが、本誌行政いばらき編集発行のほか、年2回の本会情報誌「季のきらめき」発行のため、「Discover いばらき」をテーマに、今期は、行方・日立・真壁（桜川）そして大洗と計4つの注目の自治体にご協力を仰ぎ、取材させて頂きました。

茨城を知るほどにしみじみ感じますが、本当に住みやすく、味わい深い豊かな県だということです。日本トップクラスの農産物生産量はいうまでもなく、北関東屈指の遠浅のビーチを抱え、肌身に感じる美しい四季の移り変わり、山の幸、海の幸が惜しげもなく手に入り、積雪も数年に一度の温暖な気候、これぞ理想的な高速道路と膝を打つ車の流れ、東京へも楽々日帰り可、そして何より人の温かさ……。

足りないのは県外への宣伝だけとされているものの、意識の高い方々は既にいばらきを十分堪能し尽くしておられ、できれば内緒にしておきたいくらいだとお考えでは？

コロナ禍で外出自粛、県境を越えることが憚られる時期も、せめてこの豊かな茨城県内で過ごせることの有難みを噛みしめておられる方は、私だけではないのでしょうか。

2年間ご愛読いただきありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

(広報・監察部長 石神 敦子)

振り返れば、元号が令和に変わる気忙しさの最中、新体制が発足したことを思い出す。よもや本会の理事を仰せつかるとは想像だにしていなかった私は、何の準備もないままその日を迎え、最初の理事会を欠席し、さらに最初の部会を大幅に遅参する失態を犯した。そんなこんなで、副部長との大役を断りきれずに応諾していた。

あれからあつと言う間の2年。着任するや否や、止めどなく押し寄せるかのように、PRツールの企画、広報誌の編集、記事の寄稿、取材、広報月間の準備。台風被害に、そしてコロナ禍が重なり、怒濤の日々となった。自身の力量のなさが祟り、手探り状態で何の確信のないまま業務を熟すしかなかった。それでも成果物が出来上がる度、達成感もあった。経験豊富なメンバー、事務局やご協力をいただいた役員・会員、コトブキ印刷様を始め協力企業の皆様に支えられ、何とか職務を全うできたのではなからうか。

次号からは、優秀な後任の皆様を引き継ぐことになる。制度70周年を迎えた節目、国井会長が次なるステージに向かったことで本会の態様も大幅に様変わりすることだろう。さらにコロナ禍は私たちの業界にもポストをもたらすことが容易に想像される。この「行政いばらき」にも、あるいは茨城県行政書士会の広報監察活動にも、かつてない変革が求められる予感がする。新体制には、重い宿題を残してしまったが、これをやり遂げんことを期待したい。

(副部長 吉成 俊勝)

広報監察部の部員になり、早二年の任期を迎えようとしています。当初は、生まれて初めて聞く編集用語が飛び交う中、私の頭の中も??が浮遊していた毎回の部会。

只々、ついていだけで精一杯の日々で、この二年間どれ程の貢献ができたのだろうか？自問自答の日々であります。隔月の行政いばらきの編集作業や年2回の発行の季のきらめきと、自分たちの足で取材に赴き作り上げた広報誌が完成した時は愛おしく感じる事もありました。そして、私にとって何よりの収穫は、活動を通して部員にならなければ出会えなかったであろう方たちとのご縁が持てたこと、もう一つは、紙面づくりを通して様々な知識が多少なりとも増えたことなどがあります。ご協力頂きました会員の皆様、事務局の皆様、そして部員の皆様、他関係者の皆様本当に有難うございました。

(部員 塙 由美子)



このメンバーで2年間お届けしました。有難うございました！